

活断層上の市有施設現地確認の結果（概要）及び今後の対応について

	西山形コミセン	西部児童館	西山形小	村木沢コミセン	村木沢小
1 活断層と建物との位置関係	<ul style="list-style-type: none"> 敷地東側の駐車場の真下辺りを南北方向に通っている。「明瞭な崖は存在しないが付近の地下には活断層が存在している」地帯である。 	<ul style="list-style-type: none"> 建物が主たる断層から枝分かれした両側の活断層に挟まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> 表には現れていないが、地下に活断層が点在する部分に建っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 建物北側、長岡山から北西側に南北に活断層が通っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 活断層の影響により小学校周辺が持ち上がって丘のようになっている。
2 地震発生時の建物や敷地への影響	<ul style="list-style-type: none"> 地盤が明確にズレることはないと思われる。 多少の傾きや、地表に地割れが生じるといった現象ではないかと思われる。地盤の状況によって段差のでき方は異なってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 敷地東側の『下盤』に向かって、児童館がある『上盤』が乗り上げるような動きになると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 敷地の大部分が、活撓曲(たわみ)の上であり、地表のズレにより建物に大きな被害を及ぼす可能性がある。 建物、敷地（上盤）が敷地東側（下盤）に乗り上げるような動きがあると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場に小さな地割れや傾きが生じる可能性がある。 コミセン北西側に小さな崖があり、地割れが連続する可能性があるものの、あまり大きなズレにはならないと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 両側が活断層に囲まれているため、地表のズレにより建物に大きな被害を及ぼす可能性がある。 地震が発生した場合、活断層が地表に現れてくる場所として考えられるのは東側の崖で、ひびが入ったり崩れたりする。 西側の崖は大きいように見えるが、川が削った地形でもあるため東側ほどのリスクはない。学校周りの斜面の安全対策が必要である。
3 避難時の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 危険性は明確ではないが、敷地の真下に活断層があるため、速やかに敷地から離れたほうがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 敷地東側の擁壁が崩れることが考えられ、敷地東側への避難は避けるべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> 校舎北側の川など地盤のへりの部分に気をつける必要がある。 グラウンドに避難する場合、グラウンド西端（遊具付近）は、その西の斜面が崩れる恐れがあるため避けるべきである。 対策としては斜面に落石防止ネットを張るなどの斜面崩落対策が考えられる。 グラウンドに避難する場合、（昭和54年校舎前）花壇の辺りであれば大丈夫だと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地割れや傾きのため多少の歩きにくさや車の使用に支障が生じるかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> 敷地の縁に多くの地割れが生じると思われるため、グラウンドの中央部への避難が望ましい。 直下型地震は余震が多い。体育館を避難所とした場合、足元で雷が鳴るような揺れと音がずっと続く状態となるため、精神的にも休まらないと思われる。
4 今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> 耐震化されていないが、今後、別の場所に建替えを予定していることから、移転するまでの間は、現状の利用を続ける。（※現状では、平成30年度建替え工事、平成31年度移転予定） 利用者の避難行動等については、予想される地表の変化等を考慮し、検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 今回の現地確認の結果を踏まえて、当面の施設利用や防災対応策（避難行動等）について検討を行う。 西山形コミュニティセンターの移転と合わせて、機能の移設を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 西校舎及び体育館は耐震化工事を施しているため、現状の利用を続ける。 東校舎についても応急補強工事を施しており、現状の利用を続けるが、改築の際は、活断層の位置を踏まえ建設場所の検討を行う。 児童、職員の避難行動等については、予想される地表の変化や周辺の斜面の影響等を考慮し、検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 建物が活断層の直上になく、耐震化されているため、現状の利用を続ける。 利用者の避難行動等については、予想される地表の変化等を考慮し、検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 校舎、体育館は耐震化工事を施しているため、現状の利用を続ける。 改築の際は、活断層の位置を踏まえ建設場所の検討を行う。 児童、職員の避難行動等については、予想される地表の変化や周辺の斜面の影響等を考慮し、検討を行う。 敷地、道路の擁壁については、現地確認、観察を継続する。

西山形コミセン移転予定地	
1 予定地の概況	<ul style="list-style-type: none"> 両脇に断層が存在する。 移転予定地の特徴としては、水が集まって来やすく、低いところに泥がたまっているので、地盤が柔らかいと思われる。
2 予定地としての考え方	<ul style="list-style-type: none"> 防災拠点にもなる施設であるから、他に場所があるのであれば避けたほうがよい。しかし、地域の事情・時間的な問題もあるので、この地で予想される震度6強～7の耐震構造ができるのであればよいかもしれない。 場所の提案として、地盤の上側よりも下側のほうが揺れは小さいため、もっと国道458号線寄りの下側がよいのではないかと。 ボーリング調査で地盤を確かめたうえで、支持層の確認など綿密な防止策の検討が必要。
3 今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> 今回の現地確認の結果を踏まえて、早期に「西山形コミュニティセンター建設促進委員会」（※地元で組織された団体）を通して、地元と検討を行う。